

第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和7年6月30日（月） 午後1時30分～3時

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：藤井尚子会長、神谷紀彦副会長、石田博久委員、樽松立子委員、
鈴木壘委員、平井明樹夫委員、村松千香子委員、矢島利充委員

欠席委員：鈴木ヒエン委員

事務局：水谷供子市民部長、中村美紀UD・男女共同参画課長、平澤啓樹課長補
佐、小杉泰司UD推進グループ長、太田俊樹、柳井千尋、河嶋美夏

傍聴者：なし

会議録作成者：UD・男女共同参画課 河嶋

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：無）

《会議次第》

- 1 開 会
- 2 市民部長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 新任委員委嘱
- 5 委員自己紹介
- 6 事務局職員自己紹介
- 7 議 事
 - （1）令和7年度ユニバーサルデザイン事業概要について
 - （2）第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・ゆうプランⅢ）
第1期推進計画進捗状況について
- 8 その他
- 9 閉 会

《配付資料》

- ・資 料 1：令和7年度ユニバーサルデザイン事業概要について
- ・資 料 2：第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・ゆうプランⅢ）
第1期推進計画進捗状況について

《会議の経過》

1 開会 （事務局）

令和7年度第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。本日は、鈴木ヒエン委員が都合により欠席である。

2 市民部長あいさつ

水谷部長挨拶

3 会長あいさつ

藤井会長挨拶

4 新任委員委嘱

水谷部長より委嘱書を交付

5 委員自己紹介

6 事務局職員自己紹介

7 議事

(事務局)

水谷部長退席。

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また、会議録の作成については、「浜松市附属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載し、公開することを了承いただく。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により、議長は会長にお願いする。

(1) 令和7年度ユニバーサルデザイン事業概要について

(事務局)

浜松市のユニバーサルデザイン施策の概要について説明

(事務局)

始めに平井委員からの事前質問票の回答をする。

(平井委員質問票①)

バーチャルアクト通りの教材は令和7年度では計画に無いが理由は。

(事務局回答①)

これまで1年間のうち6か月契約で利用していたが、今年の3月に契約形態の変更が通知され、1年契約が必須となった。令和7年度は1年間分の予算を確保していないことから契約の継続ができなくなった。現在、新たなデジタル教材について検討している。

(平井委員質問票②)

職員に対するユニバーサルデザイン研修について。講習や発信だけでなく、職員が普段業務のなかでUDの課題を拾い上げるQC活動のようなものを行い、その情報を共有することは良い啓発になるように思うがその考えはあるか。

(事務局回答②)

事務改善や職員提案事業など、市役所全体としてはQC活動を行っている。UDに特化したQC活動は考えていないが、研修を行うことによってUDを意識した事務改善や職員提案事業につながってくれることを期待したい。

(平井委員質問票③)

ピクトグラム選手権について令和7年度では計画に無いがその理由は。

(事務局回答③)

ピクトグラムは6年間実施してきたが作品もマンネリ化し、応募数も減少傾向にあった。そのため新たに「わくわく発見！UDレポートコンテスト」に移行し新たなUDの学習機会を提供していく。

(矢島委員)

UD施設見学、アクト通り等における校外学習対応について、最近は気温が高く今後も暑さが続くと思う。子どもの健康リスクを考えるとUD施設見学は、アクト通りだけではなく屋内の施設での開催はどうか。アクト通りもマンネリ化しているのではないか。

(事務局)

前年度までは5月末から11月中旬で行っていたが今年度は6月と10、11月のみとしている。児童数が多い学校だと100名を超えてしまうので屋内の商業施設等での平日開催は難しい。しかし暑さは子ども達や先生、ボランティアのリスクになり得るので今後の課題として受け取る。

(矢島委員)

UDレポートコンテストは学校の夏休みの課題ということだが、市内の特別支援学校や専門学校などにもパンフレットを配ってほしい。

(事務局)

教育委員会経由で市内の小中学校や支援学校、郵送で私立の小中学校への配布を実施する。

(矢島委員)

UD週間の中で今年行われるデフリンピックのPRはできないか。

（事務局）

デフリンピックについてはスポーツ振興課が主体となってPRしていくが、当課としても何かタイアップ出来るものはないか検討していく。

（石田委員）

UD意識調査の対象について教えてほしい。

（事務局）

まだ確定ではないが、無作為抽出した市民2000人位、企業・事業所500社位を対象に実施する予定である。

（鈴木壘委員）

小学生向けのイベントが多い印象で、今あるものを見るという取組みが基本のようだが、大人向けのUD教育の取組みはないのか。

（事務局）

UDガイド養成事業や研修など大人向けの取り組みも行っている。出前講座も子どもだけでなく誰でも申込が出来るようになっているが、成人団体からの申込みは少ない。SDGsや共生社会という言葉は最近よく聞くようになり、その出前講座も多く開催されているが、SDGsや共生社会も実はUDの考え方が基礎であるということを知らない人が多い。

（平井委員）

UDというものが当たり前であるということはあるがたい事。そして忘れてはいけない事。忘れないためには継続すること、必ず取り組んでいかななくてはならない事、たとえ言葉が変わってもUDという概念は変わらないと思う。個人的にはハード面を追っていてソフトの面はこれからというところがたくさんある。そこも含めて皆で今のUDはなんだろう、と毎年考えていくという取組みを見せるということが大事なのではないかと思う。「マナー化している」という言葉は少々引かかる。大人にとっては毎年同じような作品が出てきて確かにマナー化しているように見えるが子どもにとっては初めての体験でありこれからの教育に大切なことではないかと思う。ぜひ今さらとは言わずにこれからUDというのは当たり前の中でどのようにみんなでやっていけるのかという姿勢で進めていってほしい。

（事務局）

UDの啓発をやめるつもりは全くなく、今後も子ども中心にはなるが、引き続き浜松市の特色ある取組みを進めていく。

（矢島委員）

40代、50代向けの講座はあるか。

(事務局)

以前は文芸大と連携しながら大人向けのイベントをやっていたが人集めに苦勞する部分があった。どのような形で成人の方に啓発していく事が出来るか、今後の課題として検討していく。

(矢島委員)

現在いる29名のUD学習支援ガイドに夜間または昼間に研修会を開いてもらえば良いのではないかと。40、50代の方にもUDを啓発していくのがUD課だと思う。

(事務局)

大人にも興味を向けてもらえる取り組みができるか検討してみる。

(神谷委員)

大人だけを集めるのは難しいと思う。親子で参加できるものを増やして広めていけば自然に親も集まると思う。

(藤井会長)

議題1「令和7年度ユニバーサルデザイン事業概要」については以上とする。

(2) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画(U・ゆうプランⅢ)第1期推進計画進捗状況について

(事務局)

第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画(U・ゆうプランⅢ)第1期推進計画進捗状況について説明

(平井委員質問票④)

UD教材開発事業について。急速に進歩するデジタル技術で、単にUD施設(ハード)の体験だけでなく、コミュニケーション(ソフト)にかかわる教材の開発・提供が考えられないか。

(事務局回答④)

教材はあくまでUDの理解を深めるために提供している。また、対象が主に小中学生であり、授業で教材を使用することを想定しているのでUDの手段であるコミュニケーションの教材を開発・提供することまでは今のところ考えていない。しかし、ご意見は今後の参考にしていく。

(平井委員)

昨年度も申し上げたが、UDの考え方は難しいところがある。UD課から心のUDが大事だという話を伺った。心のUDのために必要なのはコミュニケーションである。教師が皆研修を受けて心のUDを教えることが出来るようになっていけばよいが、今のICT技術を使えば、それが出来るところまで来ているのではないかと考える。

(事務局)

過去に心のUDの教材としてカルタや紙芝居は作ってあるが、あまり使う機会が無い。

(平井委員)

カルタや紙芝居は教えるための教材であるが、コミュニケーションは子ども達が自分で考えて、正解のない問題があってもよいのではないか。今この時点で出せる正解は何だろうと考える教材というものも必要ではないかと思う。

(平井委員質問票⑤)

多言語生活情報サイト「カナルハママツ」について、改善すべき点がある。

(事務局回答⑤)

担当課に詳細を伝える。

(平井委員質問票⑥)

I C Tを活用したUD情報発信事業について、一般に情報発信事業は一方通行になりやすい。心のUDが重要でありそれにはコミュニケーションの要素が不可欠である。紹介や発信にとどまらず対話が出来る環境を作っていくことが必要ではないか。その技術はI C Tがすでに持っているのではないか。

(事務局回答⑥)

意見を参考にさせていただき何かできないか検討していく。

(平井委員質問票⑦)

自治会活動の発信と参画促進について。自治会のI C T化に向けた支援では、自治会共通の課題があると思う。体験研修の内容を教えて欲しい。

(事務局回答⑦)

全体研修として自治会のホームページを作成した市内自治会の事例紹介を行った。また、体験研修としてホームページ導入基礎知識講座、L I N E活用講座を実施した。

(矢島委員)

達成基準についてのパーセントはもう少し高めの設定にしてもらいたい。

(事務局)

意見は参考にさせていただき検討していく。

(村松委員)

進捗について全体の中のUD・男女共同参画課の成功はどこにあるのか。浸透率の割合や企業宛の質問事項の言葉の周知、アンケートの作り方に課題があるのではないか。アンケートが啓発になるような質問の文言になるようにしてはどうか。

(事務局)

質問の文言等は検討する。

(藤井会長)

デジタル化も重要だが、デジタルについていける人、ついていけない人が居るので、デジタルもアナログも両方やれば良いと思う。数字でデジタル化が達成出来ないから駄目だというのではなく、デジタルが苦手な人もすくい上げていくようなことが大事なのではないか。

(事務局)

確かにUDの観点からすると、デジタル化率が高ければ良いというものではないので、両面での対応が重要である。

(藤井会長)

第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画(U・ゆうプランⅢ)第1期推進計画進捗状況については以上とする。

4 その他

事務局より公共建築物UD指針の改訂について説明

5 閉会